

I 調査概要

1 調査目的

本調査は水道を取り巻く様々な環境変化の中、お客さまの本市水道事業に対する意向、要望、考え方、意識の変化の実情を的確に把握し、今後の水道事業運営の基礎資料とすることを目的とした。

2 調査項目

- (1) 水道水について
- (2) 水道局が行っている事業・サービスについて
- (3) 水道局の広報活動について

3 調査設計

- (1) 調査地域 岡山市全域
- (2) 調査対象 市内に在住する満 20 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 令和 2 年 12 月 18 日～令和 2 年 12 月 28 日

4 回収結果

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 (率) 1,647 (54.9%)

5 報告書の見方

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能（複数回答）とした質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 図表中における年齢別などの属性や、他の質問とのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (4) 図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は図中標記から省略している場合がある。
- (5) 報告書中の図表では、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (6) この調査は標本調査であるため、岡山市民全体の意見を推測する場合、誤差を伴う。次の式から誤差を求めることができる。（信頼度95%）

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}}$$

※1.96は信頼度95%における信頼区間係数

N=母集団（市民全体 708,155人（住民基本台帳 令和2年12月末））

n=回答者総数（1,647人）

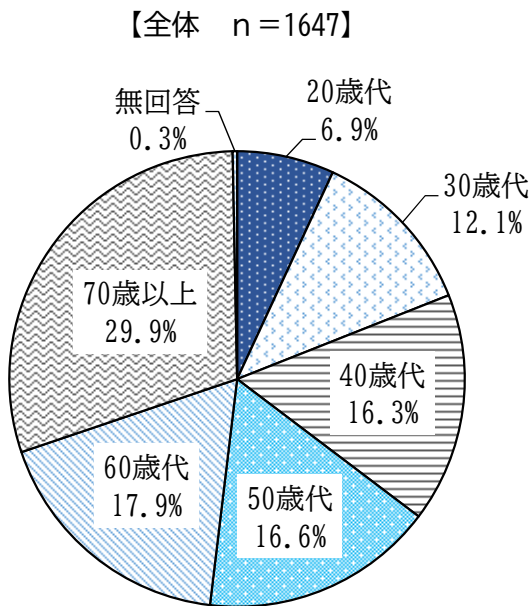
p=回答比率

回答比率（p）	誤差率
10.0%または90.0%	±1.4%
20.0%または80.0%	±1.9%
30.0%または70.0%	±2.2%
40.0%または60.0%	±2.4%
50.0%	±2.4%

回答者総数が1,647人であった場合、ある設問における当該回答選択肢の回答比率（1～4の4択の選択肢のある設問で選択肢1を選択した人の割合）が50%であったとすると、母集団（708,155人）における回答比率は47.6%～52.4%の間になると推定される。

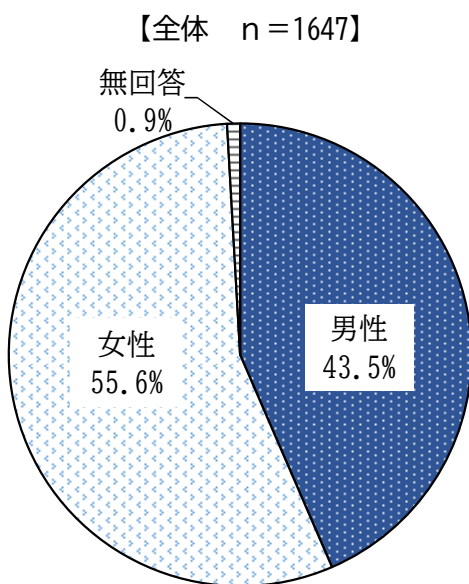
6 回答者の属性

(1) 年齢



年齢については、「70歳以上」の割合が29.9%と最も高く、次いで「60歳代」(17.9%)、「50歳代」(16.6%)、「40歳代」(16.3%)、「30歳代」(12.1%)、「20歳代」(6.9%)の順になっている。

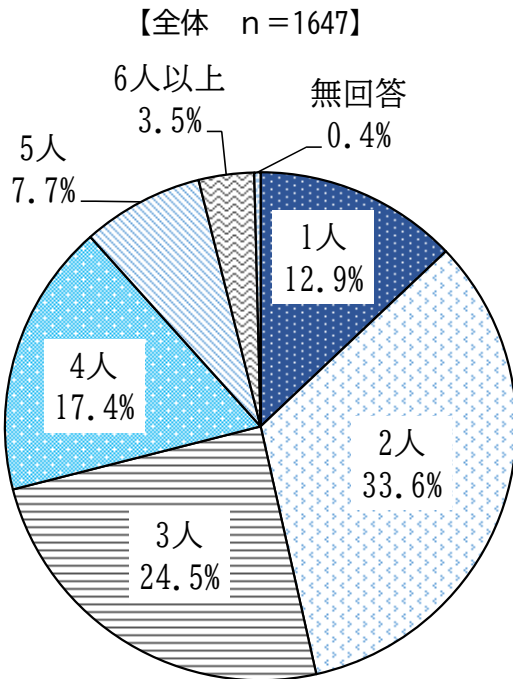
(2) 性別



回答者の性別については、「男性」が43.5%、「女性」が55.6%となっており、若干女性の割合が高い。

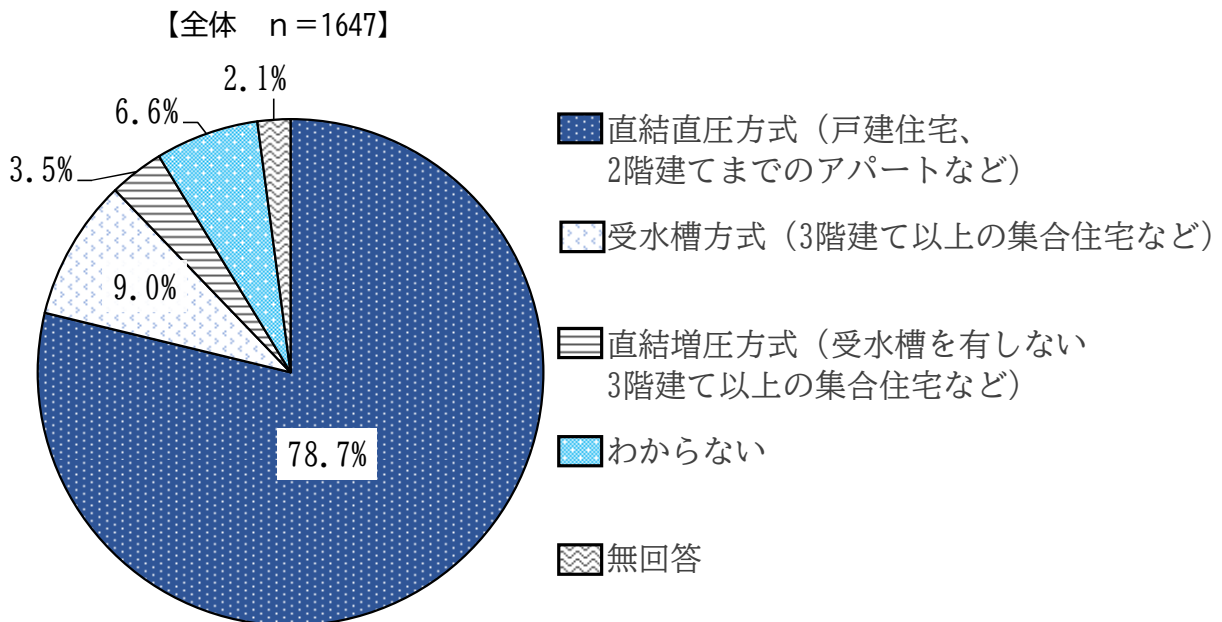
I 調査概要

(3) 同居家族の人数（回答者含む）



同居家族の人数については「2人」の割合が33.6%と最も高く、次いで「3人」(24.5%)、「4人」(17.4%)、「1人」(12.9%)、「5人」(7.7%)、「6人以上」(3.5%)の順になっている。

(4) 住居の給水方式

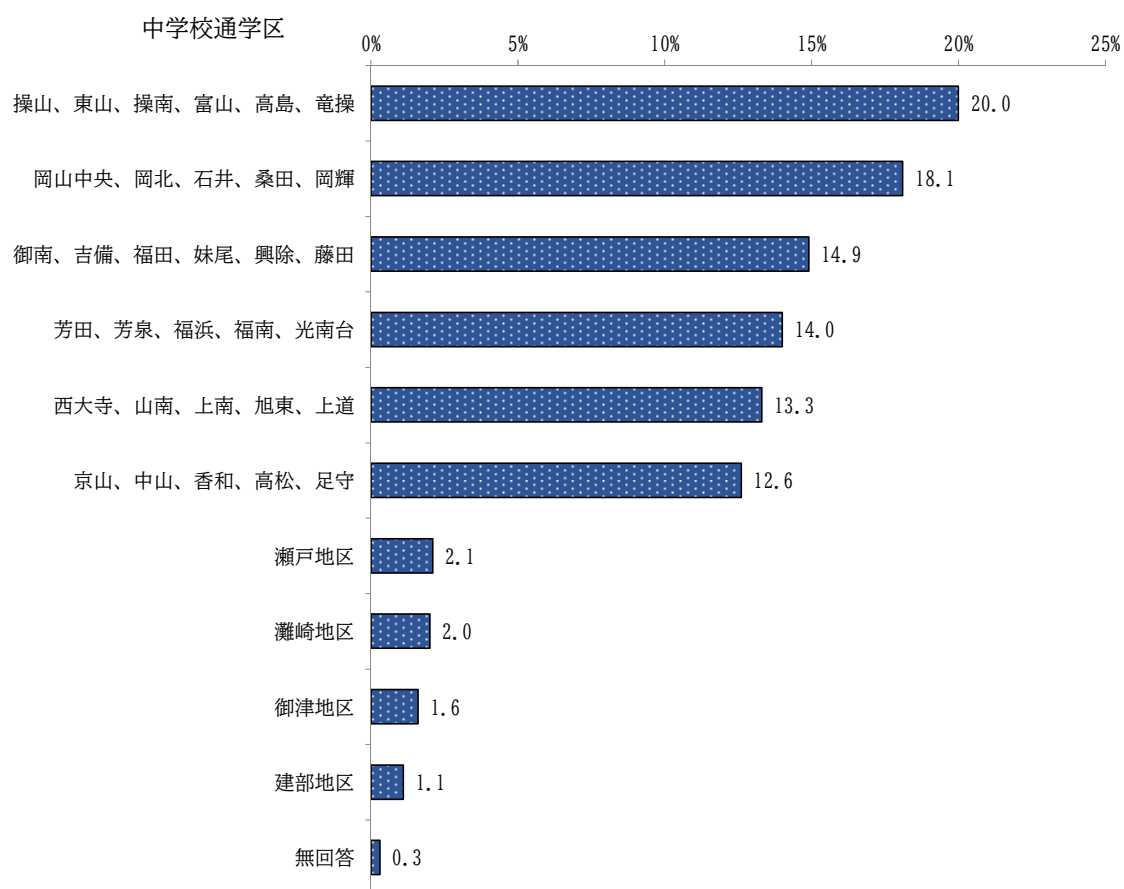


住居の給水方式については、「直結直圧方式（戸建住宅、2階建てまでのアパートなど）」の割合が78.7%と最も高く、次いで「受水槽方式（3階建て以上の集合住宅など）」(9.0%)、「わからない」(6.6%)、「直結増圧方式（受水槽を有しない3階建て以上の集合住宅など）」(3.5%)の順になっている。

I 調査概要

(5) 居住地区

【全体 n=1647】



居住地区（中学校通学区）については、「操山、東山、操南、富山、高島、竜操」の割合が20.0%と最も高く、次いで「岡山中央、岡北、石井、桑田、岡輝」（18.1%）、「御南、吉備、福田、妹尾、興除、藤田」（14.9%）、「芳田、芳泉、福浜、福南、光南台」（14.0%）、「西大寺、山南、上南、旭東、上道」（13.3%）、「京山、中山、香和、高松、足守」（12.6%）、「瀬戸地区」（2.1%）、「灘崎地区」（2.0%）、「御津地区」（1.6%）、「建部地区」（1.1%）の順になっている。